

第10回 インターネット活用教育実践コンクール

入賞実践事例報告



主催：文部科学省、インターネット活用教育実践コンクール実行委員会

後援：総務省、経済産業省、朝日新聞社

協力：(財)学習ソフトウェア情報研究センター、(財)コンピュータ教育開発センター、(社)日本教育工学振興会、(財)日本視聴覚教育協会、日本視聴覚教具連合会

第10回

インターネット活用教育実践コンクール WEBサイト

第10回インターネット活用教育実践コンクール

トップページ 募集要項 応募方法 応募フォーム 審査委員 応募についてのQ&A

各賞決定しました

インターネットを活用した教育実践
インターネットの活用をめざした教育実践
教育の情報化に寄与する教育実践

主催／文部科学省
インターネット活用教育実践コンクール実行委員会
後援／総務省・経済産業省・朝日新聞社



インターネット活用教育実践
コンクールの公式サイトでは、
過去の実践事例の報告書や映
像資料を見ることができます。

詳しくは

ネットコン

検索

“ネットコン”で
検索!



第10回インターネット活用教育実践コンクール

トップページ 募集要項 応募方法 応募フォーム 審査委員 応募についてのQ&A

第10回インターネット活用教育実践コンクール各賞の決定

第10回インターネット活用教育実践コンクールは、学校教育部門72件、社会教育部門23件の合計95件の応募があり、第1次書面審査、第2次ビデオ審査を経て、以下の通り、内閣総理大臣賞1件、文部科学大臣賞2件、総務大臣賞1件、経済産業大臣賞1件、朝日新聞社賞1件、優秀賞2件、特賞2件、今後のインターネット活用を奨励する事例として、実践奨励賞5件を決定いたしました。

このコンクールは「地域社会や学校などの教育におけるさまざまな活動の中で、インターネットを有効に活用している優れた実践事例を表彰し、全国に広く紹介することにより、教育の情報化の推進を図ること」を目的に開催され、学校教育部門と社会教育部門の応募を受け、各賞を決定いたしました。

実践レポート・映像資料をご覧になる前に

実践レポートおよび映像資料は、インターネット活用教育実践コンクールの審査のために作成されたものです。ご覧の際は、必ずダウンロードしてください。

報告書



映像資料



<http://www.netcon.gr.jp/>

第10回 インターネット活用教育実践コンクール

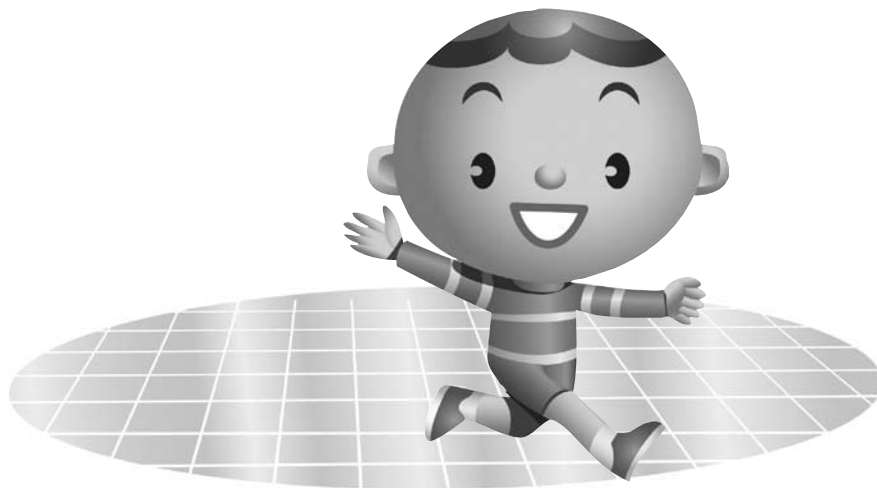
入賞実践事例報告

経過報告

文部科学省・インターネット活用教育実践コンクール実行委員会主催、総務省・経済産業省・朝日新聞社後援による第10回インターネット活用教育実践コンクールは、「地域社会や学校などの教育におけるさまざまな活動の中で、インターネットを有効に活用している優れた実践事例を表彰し、全国に広く紹介することにより、教育の情報化の推進を図ること」を目的に開催され、学校教育と社会教育の2部門について、実践事例を平成21年10月1日よりWeb上で募集を開始した。10月31日に締切り、学校教育部門72件、社会教育部門23件の合計95件の応募を得た。第1次書面審査、第2次ビデオ審査を経て、平成22年2月15日、審査委員会において各賞を決定した。各賞の内訳は、内閣総理大臣賞1件、文部科学大臣賞2件、総務大臣賞1件、経済産業大臣賞1件、朝日新聞社賞1件、優秀賞2件、特賞2件。また、今後のインターネット活用を奨励する事例として、5件を実践奨励賞とした。

表彰式は、3月19日(金)、東海大学校友会館(東京都千代田区霞が関3-2-5霞が関ビル35階)において行われた。

本報告では、審査概評と入賞実践事例の概要および受賞者の感想を掲載している。また、巻末に第2次審査対象となったビデオ映像による活動の様子など、実践の記録を納めたDVDを添付した。



● インターネット活用教育実践コンクール入賞実践事例 ●

1・経過報告

3・審査概評

4・内閣総理大臣賞・社会教育部門

「オバケーション」

特定非営利活動法人グリエイティブスマイル（東京都）

6・文部科学大臣賞・学校教育部門

「ネットで安心を届けた全校児童の2泊3日の離島体験」

三重県津市立太郎生小学校

7・文部科学大臣賞・社会教育部門

「森の恵み地域の恵み探検隊－みんなでつくる信濃の国の物語－」

財団法人長野県緑の基金・「森の恵み地域の恵み探検隊」制作チーム一同（長野県）

8・総務大臣賞・学校教育部門

「ベッドサイド学習をする生徒のための遠隔教育の試み」

石川県立医王養護学校

9・経済産業大臣賞・学校教育部門

「島の未来を考えよう！－小豆島活性化大作戦！－」

香川県小豆郡小豆島町立安田小学校

10・朝日新聞社賞・学校教育部門

「適切な情報発信ができる児童の育成を目指して」

茨城県筑西市立竹島小学校

11・優秀賞・学校教育部門

「高校生による温暖化対策へのチャレンジ」

広島市立広島工業高等学校

11・優秀賞・社会教育部門

「手仕事に学ぶ子どもたちのキャリア教育支援ネットワーク」

特定非営利活動法人地域学習プラットフォーム研究会（キャリア教育支援グループ）（富山県）

12・特賞・学校教育部門

「地域の教育資源を活かした地域貢献プロジェクト！－『ものづくり』を活かした環境教育の発信－」

徳島県立貞光工業高等学校

12・特賞・社会教育部門

「通学路安心安全見える化大作戦」

鳥取県立倉吉東高等学校育友会

13・実践奨励賞・学校教育部門

「総合的な学習の時間に取り組んだフィンランドの学校との交流活動」

茨城県取手市立野々井中学校

「Weblogを利用した保護者参加型のメディア・リテラシー学習プログラムの開発とモデル化の試み」

東京都小平市立小平第五小学校

「中学校数学ICT教材『数学アーカイブス』の開発と実践」

岐阜県中学校数学教育研究会・岐阜県関市立旭ヶ丘中学校

「『Hi！家庭科』－家庭科教育におけるICT活用促進－」

徳島県高等学校教育研究会家庭学会

13・実践奨励賞・社会教育部門

「キッズ地域情報発信基地局」

特定非営利活動法人CANVAS（東京都）

14・表彰式

審査概評

審査委員長

東京未来大学学長・
東京工業大学名誉教授

坂元 昂



第10回インターネット活用教育実践コンクールには、実践事例報告95件が集まった。それらについて、校種・分野ごとに審査委員に分担、書面審査をお願いし、上位34件を選出し、第1次審査委員会において、慎重審議のうえ、学校教育部門6件、社会教育部門4件の計10件を第2次審査対象候補とした。さらに、映像制作会社に、候補先の現地取材をお願いし、具体的な活動状況を10分程度のビデオにまとめてもらった。それらを審査委員が精査し、第2次審査委員会において多角的に検討のうえ、受賞者並びに受賞実践を決定した。

内閣総理大臣賞の栄誉に輝いたのは、東京都の特定非営利活動法人クリエイティブスマイルの「オバケーション」であった。全国の小学生が豊かな想像力を発揮して考え出した630体のお化けをキャラクター化し、カード、ゲーム、図絵に仕立て、ネットで配信したり、実際に参加型のワークショップを行っており、その中で子どもたちがお化けを見つけ、例えば、アイウエお化け、のりせんべいのような名をつけ、お話作りをし、公開し、それを受けてほかの子がお話を展開するなど、インターネットの世界をお化けのふるさととし、安心して遊べる場を作り上げている。そこが、子どもと保護者、企業を仲介する場として、子どもの創造力を育てるのに貢献している。全国的に、北海道から沖縄に至る12000人のユーザーが参加しており、ラックというネットワーク上の通貨までも使っている。子どもの想像力、創造力を育てるのに、ネットワークを上手に活用した実践として高く評価された。

文部科学大臣賞学校教育部門は、三重県津市立太郎生小学校の「ネットで安心を届けた全校児童の2泊3日の離島体験」に贈られた。山間地の小規模校の全児童38人が親元を離れて2泊3日の離島宿泊合宿をしている状況を、ネットワークで、遠くから、心配している保護者に逐次送り、親の安心感を保障し、合宿の臨場感をも届けた実践である。日常的に、携帯送信で学校の状況を見守ることに慣れている保護者は、毎時更新される携帯情報で、合宿で現在進行中の行事を知り、夜は、宿から子どもの作文や写真を毎日更新して送られるホームページ情報を見守り、気になる点は離島の教師に直接携帯で連絡し用事を頼んだり、頻繁に、携帯で子どもの今の様子を見て安心したりした。宿泊期間に752のアクセスがあり、普通の5倍に達し、大きな役割を演じた。学校は、並行して、アナログの紙情報も重視し、両面から、学校と家

庭の連携を深めている。インターネットの有効な活用法として高い評価を受けた。

社会教育部門では、財団法人長野県緑の基金・「森の恵み地域の恵み探検隊」制作チーム一同の「森の恵み地域の恵み探検隊ーみんなでつくる信濃の国の物語ー」が獲得した。

県内の13の団体が独立して地域の宝物を探し、気づき、信濃の国の物語という共通教材を制作し、共感のネットワークを構築した実践である。3人のキャラクターが各団体を訪れ、体験学習プログラムベース教材を、動画画像を中心に開発した。PushCornという自作ツールを使った実践で、異なる団体の活動をネットで結ぶ協働制作の努力が認められた。

総務大臣賞の石川県立医王養護学校の「ベッドサイド学習をする生徒のための遠隔教育の試み」は、ベッド上での学習を余儀なくされている生徒へ教室からの授業配信ではなく、反対に教師が、ベッドサイドでその生徒に直接指導し、教室の生徒にはインターネットテレビ電話で遠隔教育をするという、逆転の発想が高く評価された。ベッドサイド学習をする生徒は、積極性を出し、デジタル教材を自作するまでになった。全国的にも展開できる実践と考えられる。

経済産業大臣賞の香川県小豆郡小豆島町立安田小学校の「島の未来を考えよう！ー小豆島活性化大作戦！ー」は、引退後、小豆島で余生を過ごしたいという希望を持つスイスの高校で勤務されている日本人の先生に、児童が、自らの調べて集めた情報をまとめて知らせる活動を通して、地域の文化、自然、環境の状況を知り、ICTを活用して、知り合いができ、インターネットの先に人がいることを体験した実践であった。

朝日新聞社賞の茨城県筑西市立竹島小学校の「適切な情報発信ができる児童の育成を目指して」では、子ども記者が保護者10人のサポーターの支援を受け、記事のコメントを通し、広島の小学校との記事のやり取りを通じて、著作権や肖像権などに配慮したネットワーク配信を体験した実践である。ここでも、ネットワークの向こうに人がいるという実感が得られている。

このように、優れた実践が数多く増えてきたのは、誠に喜ばしく、10年の成果が実ってきていることを審査員一同、実感している。

内閣総理大臣賞

社会教育部門

「オバケーション」



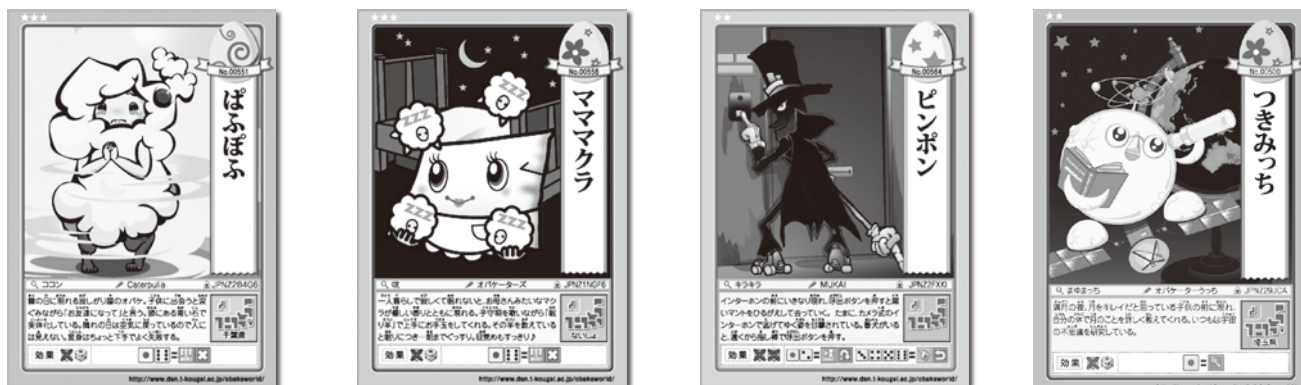
「オバケーション」トップページ

特定非営利活動法人
クリエイティブスマイル
(東京都)

URL <http://japan.obacation.com>

概要

社会環境の変化によって遊びが減少し、創造的な能力を育てにくくなった子どもたちに対して、子どものアイデア（文字、写真、イラストなど）をキャラクターにすることで、子どもの想像力を形にし、社会で広く活躍させようというプロジェクト。オバケーションWEBサイトの運営や、子どもたちが身近な物から想像力を膨らませてオバケを考えるワークショップを実際に商店街で実施。子どもの想像力を養い、大人は子どもの発想を見直すキッカケとなっている。



子どもたちのアイデアから生まれたオバケたち

👤 オバケーションWEBサイトの運営 👤

- 毎月8日に、子どもたちのアイデアを元にして、キャラクターデザイナーやデザイン科の大学生が制作したオバケキャラクターを公開。
- 毎月オバケが公開されると、アイデアを投稿してくれた子から感想や喜びの声が届く。また、いろいろな子どもたちから、そのオバケの活躍する「お話」が投稿される。



アイデア投稿ページ

👤 ワークショップ 中野区川島商店街～発見！オバケ探検団～ 👤



商店街へ出発

- 子どもたちが商店街のお店を巡り、オバケになりそうな物を、デジタルカメラで撮影。写真や、お店で聞いたお話からオバケを想像して絵を描く。面白いアイデアはキャラクターにしてお店にプレゼント。



想像して絵を描く



お店で話を聞く



受賞の感想

オバケーションの活動は2000年に始まりました。当初はネットでの活動自体が珍しがられ、興味を持ってもらいましたが、今では、安心安全が最優先の時代になりました。その意味において、多くの学校関係の皆様も受賞されているこのコンクールで賞を頂けたことは、大きな喜びであるだけでなく、大変意義深いものでもあります。

また、インターネットがあるからこそ、世界の小学生の考えたお化けを交流させることもできました。世界中のいろいろなゴミ箱から生まれたお化けたちを比較して生まれる国際交流など、考えるだけでワクワクします。今後は小学校、中学校の皆様と是非とも共同プログラムを進めさせて頂きたいと考えて居りますので、よろしくお願いいたします。

NPO法人クリエイティブスマイル理事長 笠尾敦司

文部科学大臣賞

学校教育部門

「ネットで安心を届けた全校児童の2泊3日の離島体験」



ホームページによる情報発信

三重県津市立太郎生小学校

URL

<http://www.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2410004>

概要

全校児童が答志島(鳥羽市)での2泊3日の宿泊体験を行った。1年生の児童が、親元を離れ、2泊も離島で過ごすこの宿泊体験では、学校へ信頼を寄せる保護者に安心を届けるべく、答志島からリアルタイムで、児童の活動の様子をメールやホームページで発信し続けることで、全校児童の宿泊体験活動を可能にした。



受賞の感想

まさに「夢のような2泊3日の答志島宿泊体験」でした。半年後の今も話題になります。

受賞後、学校便りに次のように書きました。

「全校児童の2泊体験は私が知る限り公立の学校では見当たりません。これは学校だけの判断ではできないことだからです。まずは保護者の理解が必要です。子どもたちもルールが守れないといけません。さらに、職員も、その気になる必要があります。本来の学校の教育課程をはるかに超える実践ですから。そういった太郎生小の教育に関わるすべてのことに後押しされての答志島でした。そのことを評価していただいたのだと思うています。一斉メールで速報したように、この名誉は保護者の皆さんや子どもたちが受けるべきです。」

三重県津市立太郎生小学校校長 中林則孝

文部科学大臣賞

社会教育部門

「森の恵み地域の恵み探検隊 －みんなでつくる信濃の国の物語－」



13地域によるコンテンツから成るWEBサイト

財団法人長野県緑の基金・
「森の恵み地域の恵み探検隊」
制作チーム一同（長野県）

URL <http://megumi.midori-joho.gr.jp/>

概要

長野県（信濃の国）の各地域で実施した自然体験・地域体験プログラムを記録・編集することで、子どもからお年寄りまで地域の多くの人々が教材作りに参画できる参加型の教材開発を行った。こうした参加型情報発信の活動を広げるため、アーカイブツールを改善し、長野大学が「参加型アーカイブサーバ」を地域の活動や社会教育などの活動に対して開放する支援策を講じている。



受賞の感想

この度は光栄な賞をいただき誠にありがとうございました。『森の恵み地域の恵み探検隊』は、長野県内で取り組まれている自然や地域の体験学習プログラムを、「見える化」した教材コンテンツです。ビデオ撮影はもちろん、ネット活用も初めての実践者が多く、全てが試行錯誤の連続でした。そのため、誰にでもできるもっとも簡単な方法を選びました。にもかかわらず、社会教育部門で評価いただけたことは望外の喜びです。私たち一同にとっても励みになります。地域の多くの皆さんにもこのことを伝え、喜びをわかちあいたいと思います。

今後に向けては、こうした活動の輪を広げていけるようなネットワークづくり、地域からの情報発信を進めていきたいと考えています。

財団法人長野県緑の基金・「森の恵み地域の恵み探検隊」制作チーム一同 プロジェクト統括
長野大学准教授 前川道博

総務大臣賞

学校教育部門

「ベッドサイド学習をする生徒のための 遠隔教育の試み」



ベッドサイド学習の様子

石川県立医王養護学校

URL

<http://www.ishikawa-c.ed.jp/~iouxxs/>

概要

ベッド上での学習を余儀なくされている生徒が、他者とコミュニケーションをとれるよう、インターネットを用いて教室と病室を繋いで学習活動を行う実践に取り組んだ。今年度は、100時間以上の接続を行い、インターネットテレビ電話の教育現場での活用方法を蓄積した。この実践は、登校の難しい生徒や病院訪問教育への支援としても期待される。



受賞の感想

このような大きな賞を受けることができ、ご支援いただいた石川県、本校教職員、保護者のみなさん、なによりがんばってくれた生徒たちに心から感謝したいと思います。病気のため登校できない、入院を続けなければならない、将来に不安を持ち孤独にさいなまれる子どもたちにICTを用いた実践を続けてきました。ICTは少し前なら考えられなかったことを可能にしました。他の子と同じように学びたいという思い、だれかとつながっていたいという思いをかなえることができました。そして自分が社会の役に立っているという思いを持たせることができました。生徒も自分の頑張りが他の同じ境遇の子どもたちの役に立てることに喜んでいます。このような技術、インフラを確立してくださった皆さんに感謝すると共にこれをどう活かしていくか、実践を積み重ねていくことが自分の役割だと思っています。

石川県立医王養護学校教諭 荒木敏彦

経済産業大臣賞

学校教育部門

「島の未来を考えよう！－小豆島活性化大作戦！－」



インターネットで島について調べる

香川県小豆郡小豆島町立安田小学校

URL <http://www.niji.jp/school/yasuda/>

概要

「小豆島を定年後の移住地の一つとして考えたい」という、スイス在住の日本語教師から一通のメールが入ったことから始まった。小豆島は、深刻な過疎化が進んでいる。しかし移住を望んでいる人もいる。小豆島のよさを全国にアピールして一人でも関心を持ってもらい、将来的に、小豆島が活性化した島になって欲しいという願いから行ったICTを活用した教育実践。



受賞の感想

安田小学校は、旧安田小と旧福田小が昨年、統合して「新安田小学校」になりました。その統合初年度にこのような立派な賞をいただけたのは感慨無量です。よい記念になりました。この取組が賞をいただけるにあたっては、『縁』というものを感じています。たまたま、移住を望まれている方からメールがきたこと、よきパートナー、よき協力者に恵まれたこと、県や町も移住の取組を促進していること等です。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

小豆島は、今のままでは人口が減り続け、深刻な過疎化の島になってしまいます。今後、行政のみならず、私たち学校も小豆島のよいところを探し、島外に住んでいる人に伝え、少しでも移住促進のお手伝いができたらうれしいです。

香川県小豆郡小豆島町立安田小学校教諭 岡 亨

朝日新聞社賞

学校教育部門

「適切な情報発信ができる児童の育成を目指して」



協力しながらキーボード操作を行う

茨城県筑西市立竹島小学校

URL

<http://www.chikusei.ed.jp/takesho/>

概要

各教科等の学習において、児童が学校WEBサイトから情報発信を行うことを通して、児童自らが考え、判断し適切な情報発信ができることをねらいとしている。記事作成のための写真撮影や文字の入力等は、児童がICTを活用して行い、教職員がその内容を確認し、情報公開されている。閲覧者を意識して、分かりやすく表現することを通し、児童に適切な情報発信について考えさせる。



受賞の感想

この度は素晴らしい賞をありがとうございます。子どもたちが、インターネットを生活の中で、よりよく活用できるようになってほしいと願い、家庭や地域と連携しながら進めてきた実践が認められ、大変うれしく思います。

人は、他人と協調し、譲り合い、助け合うことで、自分もまたそのコミュニティの中で生かされるのであり、直接的な人間関係はもとより、インターネット上でも画面の向こう側で、人が一生懸命に生きているのだということを、子どもたちに実感として学んでほしいと願っています。

どんなに技術が進んでも、変わらない大切なことがあるはず。そんな思いをもって、これからも家庭や地域と連携しながら実践を続けたいと思います。

茨城県筑西市立竹島小学校情報教育担当教諭 小倉康雄

優秀賞

学校教育部門

「高校生による温暖化対策へのチャレンジ」



学校前のCO₂濃度表示装置からデータを作成

広島市立広島工業高等学校

URL

<http://www.hiroshima-kougyo-h.edu.city.hiroshima.jp/>

概要

広島市教育委員会による「高校生による温暖化対策チャレンジ事業」として、学校校舎屋上で屋上緑化研究を実施。この研究に広島工業高校情報電子科が開発した各種センサーとネットワーク・サーバを構築し、蓄積したデータを分析することで、屋上緑化に適し、二酸化炭素の吸収に優れた屋上緑化システムを開発。それらは、市内の小中学校の環境教育にも活用するという目的で、産学官連携した取り組みとなっている。

社会教育部門

「手仕事に学ぶ子どもたちのキャリア教育支援ネットワーク」



手仕事に携わる人たちから学ぶ

特定非営利活動法人地域学習
プラットフォーム研究会
(キャリア教育支援グループ) (富山県)

URL

<http://shiminjuku.org/home/NPOnituite/NPO.html>

概要

手仕事に携わる人たちの仕事観に触れ、社会にはさまざまな働き方、働きがい、生きがいがあることを学び、その体験を情報としてインターネット上に公開したりと、将来の職業を考える子どもたちのキャリア教育に役立てるWEB学習プラットフォームを開発し、それをを用いての実践を行っている。また、住民アイレクター、各地の市民塾の連携といった本活動を支援する体制も構築されている。

特賞

学校教育部門

「地域の教育資源を活かした地域貢献プロジェクト！ －『ものづくり』を活かした環境教育の発信－」



徳島県立貞光工業高等学校

URL

<http://www.sadamitsu-th.tokushima-ec.ed.jp/>

生徒作成による「巨樹の分布状況」ページ

概要

卓越した地域の技術者等を招へいした技術教育を行い、地域の企業や地元「つるぎ町」と緊密な連携を図り、地域と連携した工業科教育に取り組む。その成果を「地域の教育資源を活かした教育活動」と位置づけ、「ものづくり」を取り入れた小中学校出前講座のメニュー化や学校での環境教育の取り組みをWEB化した教材をホームページで紹介するなど、ICTを活用した「地域貢献プロジェクト」を行っている。

社会教育部門

「通学路安心安全見える化大作戦」



鳥取県立倉吉東高等学校育友会

URL

<http://sotoanshin.blog88.fc2.com/>

安心安全のための情報提供するページ

概要

近年、事件・事故が発生し、通学路の安心安全が脅かされている。学校、地域で、不審者等の出現する「危ない場所」を360度展開できるパノラマ写真など立体的な画像や映像を用いることで、現場でのリアル感を具現化した情報共有を進め、生徒の安心安全を守るための安全教育を充実させるとともに、生徒自身が危険を予測し、回避できるよう防犯教育を進めるため、保護者らが、通学路の安心安全を「見える化」した。

実践奨励賞

■ 学校教育部門

「総合的な学習の時間に取り組んだフィンランドの学校との交流活動」

茨城県取手市立野々井中学校

URL <http://blog.livedoor.jp/nonoiyh/>

■ 学校教育部門

「Weblogを利用した保護者参加型のメディア・リテラシー 学習プログラムの開発とモデル化の試み」

東京都小平市立小平第五小学校

URL <http://www.kodaira.ed.jp/05kodaira/>

■ 学校教育部門

「中学校数学ICT教材『数学アーカイブス』の開発と実践」

岐阜県中学校数学教育研究会・岐阜県関市立旭ヶ丘中学校

URL <http://www.chusuken.jp/>

URL <http://www5.city.seki.gifu.jp/asahigaoka-chu/>

■ 学校教育部門

「『Hi！家庭科』－家庭科教育におけるICT活用促進－」

徳島県高等学校教育研究会家庭学会

URL <http://e-school.ias.tokushima-u.ac.jp/hi-katei/>

■ 社会教育部門

「キッズ地域情報発信基地局」

特定非営利活動法人CANVAS（東京都）

URL <http://www.canvas.ws/>

表彰式

平成22年3月19日(金)
東京霞が関・東海大学校友会館

表彰式には、受賞者、関係者約70名が出席した。高井美穂文部科学大臣政務官より、内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞が、各賞については、各省庁の代表及び実行委員長より賞状・トロフィー・副賞が授与された。



主催挨拶される高井美穂文部科学大臣政務官



表彰式会場



内閣総理大臣賞を受賞する特定非営利活動法人クリエイティブスマイルの代表



文部科学大臣賞を受賞する三重県津市立太郎生小学校の代理



文部科学大臣賞を受賞する財団法人長野県緑の基金・「森の恵み地域の恵み探検隊」制作チーム一同の代表



総務大臣賞を受賞する石川県立医王養護学校の代表



受賞者の方々



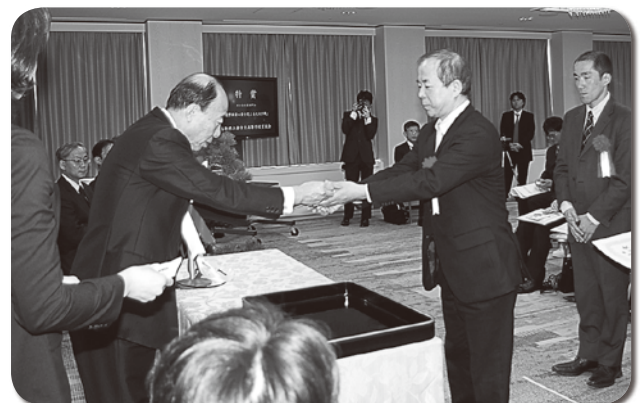
優秀賞を受賞する広島市立広島工業高等学校の代表



優秀賞を受賞する特定非営利活動法人地域学習プラットフォーム研究会(キャリア教育支援グループ)の代表



特賞を受賞する徳島県立貞光工業高等学校の代表



特賞を受賞する鳥取県立倉吉東高等学校友会の代表

第10回インターネット活用教育実践コンクール 入賞実践事例報告

平成22年3月23日 印刷

平成22年3月25日 発行

編集・発行 文部科学省

インターネット活用教育実践コンクール実行委員会

印刷 株式会社リーブルテック

東京都北区堀船 1-23-31

発行所 財団法人日本視聴覚教育協会

東京都港区虎ノ門 1-19-5 虎ノ門 1 丁目森ビル

電話 03-3591-2186

FAX 03-3597-0564

URL <http://www.netcon.gr.jp>

- DVDビデオは映像と音声を高密度に記録したディスクです。
- DVDビデオ対応のプレーヤーで再生してください。
- 再生機の機種によっては、正常に動作しない場合があります。
- 各再生機能操作については、ご使用になるプレーヤー及びテレビの取扱説明書を必ずご参照ください。
- このDVDビデオを権利者に無断で、複製、改変、公衆送信(放送、有線放送、インターネットなど)、頒布(販売など)、翻訳、翻案などに使用することはできません。
- このDVDビデオは非営利の学校教育又は社会教育を目的とする場合に限り、無償で公衆に貸与するとともに、貸与を受けた者が、公に上映することができます。
- 本DVDビデオの使用に起因するユーザーのあらゆる損害に対し、文部科学省、インターネット活用教育実践コンクール実行委員会は一切の責任を負いません。